

# 対話をうながす学習環境デザイン (1) —生徒・教師の座席配置の認識に関する一考察—

○小黒竜太 (横浜国立大学大学院)

有元典文 (横浜国立大学)

キーワード：教室環境，座席配置，授業場面

## 問題と目的

授業における教室空間は教材教具の一つとして機能し，学習環境を構成する。空間デザインが人の行為やインラクションに影響を与えることはアレグサンダー(1975)によって指摘されている。しかし座席配置が生徒の学習活動に及ぼす影響について，国内での心理学的研究は少ない。そこで本研究では，生徒，教員が座席配置と学習形態の関連をどのように認識しているかに着目する。そのことで空間的なデザインが学習にどう影響するか，現場に還元可能な基礎的知見を得ることを目的とする。

## 方 法

**調査対象者** 関東圏の国立大学附属中学校に通う中学 1, 2 年生 (男子 100 名，女子 93 名，不明 3 名，平均年齢 13.33 歳， $SD=0.55$ ) と教員 (教員歴平均 12.19 年， $SD=4.73$ ) を対象とした。調査は 2019 年 1 月下旬から 2 月上旬にかけて行った。  
**質問紙** 基本属性 (生徒は性別，年齢，学年，教員は教員歴，科目，学年) と，授業場面に応じた教室の座席配置に関して，自由記述を含んだ質問紙を使用した。授業場面は「授業中に教員が生徒に話をする場面」，「生徒個人で学習をする場面」，「生徒が仲間と話し合いをする場面」の 3 つを設定した。座席配置は，1 (ペア)：机が隣接する 2 列ごとの配置，2 (個別)：個々の机が離れている配置，3 (班型)：4 つごとに机が隣接している配置，4 (コ字)：コの字型の配置を設定した。各授業場面における各座席配置のふさわしさについて「全くそう思わない」から「とてもそう思う」の 5 件法で回答を求めた。そして，総合的に考えて授業で一番ふさわしいと思う座席配置の番号についても回答と理由の記述を求めた。

## 結果と考察

まず，各授業場面における座席配置のふさわしさに対する，生徒と教員の回答の記述統計量を Table 1, Table 2, Table 3 にそれぞれ記した。

Table 1 教員が生徒に話をする場面

|        | 生徒 (N=196) |      | 教員 (N=17) |      |
|--------|------------|------|-----------|------|
|        | M          | SD   | M         | SD   |
| 1 (ペア) | 3.48       | 1.08 | 3.82      | 0.62 |
| 2 (個別) | 3.76       | 1.12 | 4.06      | 0.73 |
| 3 (班型) | 2.65       | 1.12 | 2.71      | 0.67 |
| 4 (コ字) | 3.21       | 1.20 | 3.18      | 0.86 |

Table 2 生徒個人で学習をする場面

|        | 生徒 (N=196) |      | 教員 (N=17) |      |
|--------|------------|------|-----------|------|
|        | M          | SD   | M         | SD   |
| 1 (ペア) | 2.92       | 1.08 | 3.65      | 0.76 |
| 2 (個別) | 4.31       | 1.01 | 4.29      | 0.67 |
| 3 (班型) | 2.10       | 0.93 | 2.35      | 0.68 |
| 4 (コ字) | 2.58       | 1.12 | 2.29      | 0.57 |

Table 3 生徒がクラスの仲間と話し合いをする場面

|        | 生徒 (N=196) |      | 教員 (N=17) |      |
|--------|------------|------|-----------|------|
|        | M          | SD   | M         | SD   |
| 1 (ペア) | 3.44       | 1.17 | 2.82      | 0.98 |
| 2 (個別) | 2.55       | 1.03 | 2.41      | 0.77 |
| 3 (班型) | 4.56       | 0.84 | 4.24      | 0.55 |
| 4 (コ字) | 4.31       | 1.03 | 3.88      | 0.58 |

次に，自由記述で得た合計 248 個の「ふさわしい座席配置の理由」を，KJ 法を援用し生徒・教員別に分類を行った。生徒では 15 の小カテゴリに分類され，さらに 7 の中カテゴリに分類された (Table 4)。教員では 11 の小カテゴリに分類され，さらに 5 の中カテゴリに分類された (Table 5)。

Table 4 生徒のふさわしい座席配置の理由の分類

| 中カテゴリ  | 小カテゴリ数 | N   | %    | 主な記述          |
|--------|--------|-----|------|---------------|
| 集団的観点  | 4      | 112 | 50.2 | 周りに相談しやすい     |
| 個人志向   | 3      | 52  | 23.3 | 一人で集中しやすい     |
| 総合的観点  | 2      | 29  | 13.0 | 最も平均的         |
| 教師の利便性 | 3      | 13  | 5.8  | 先生が話をしやすい     |
| 過去の経験  | 1      | 8   | 3.5  | 小学校で似た配置で良かった |
| 慣習     | 1      | 6   | 2.6  | 今の学校と同じだから    |
| その他    | 1      | 3   | 1.3  |               |

Table 5 教員のふさわしい座席配置の理由の分類

| 中カテゴリ   | 小カテゴリ数 | N | %    | 主な記述           |
|---------|--------|---|------|----------------|
| 場面による判断 | 2      | 9 | 36.0 | 授業内容によるので      |
| 集団的観点   | 4      | 8 | 32.0 | 協働的な学びにつながりやすい |
| 教師の利便性  | 2      | 4 | 16.0 | 最初の指示が伝えやすい    |
| 個人志向    | 2      | 3 | 12.0 | 個で考える時間を確保する   |
| その他     | 1      | 1 | 4.0  |                |

生徒と教員の双方に，集団的観点，教師の利便性，個人志向に関する記述がみられた。生徒は集団的観点に関する記述，教員は場面による判断に関する記述がそれぞれ最も多かった。これに各授業場面における座席配置のふさわしさへの回答結果を踏まえると，座席配置に対して，教員の話の聞いたり，個別で学んだり，話し合ったりといった学習形態の関連の認識は生徒と教員で大きく乖離はしていないと考えられる。ただし，1 (ペア) のような座席配置について，個別学習や話し合いの場面における教員と生徒のそれぞれの認識について今後さらなる検討が必要と考えられる。